

〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2020年 助成団体活動成果レポート

助成団体

特定非営利 活動法人 北東北搜索犬チーム

青森県青森市

プロジェクト名

セラピー犬とそのハンドラーの育成基盤の整備 ～セラピー犬についての公開講座の開催～

■地域の課題

社会が高齢化、複雑化するに伴い、2015年5月にセラピー犬とそのハンドラーの育成とセラピー活動を行うようになり、老人福祉施設、心身障害児施設、児童関係施設などでセラピー犬によるセラピー活動をボランティアで行い、多くの人たちに心の安らぎを与え、明るい社会の構築に貢献しています。

1回のセラピー活動は30分程度で終了します。その間、たくさんの人達にセラピー犬に触っていただくのですが、その時の犬のストレスはとても大きく、セラピー活動終了後の約1週間は犬を休ませる必要があります。

現在、9頭のセラピー犬が交代で老人ホーム9箇所、障がいのある子どもたちの施設2箇所、ふれあいを通したセラピー活動を行っています。同じ施設に3～4か月に1回程度しか行くことが出来ず、「もっと訪問回数を多くしてほしい」との要望に、セラピー犬が足りず応えることが出来ない状況にあります。

さらに、他の多くの施設から「セラピー犬を自分たちの施設でも導入したい。」という要望が寄せられていますが、全てに対応が出来ず、セラピー犬とそのハンドラーの育成は急務の状況にあります。

■当団体の紹介

セラピー犬に関する講座の開催を通して、セラピー犬の有効性と頭数が不足する現状について理解を深めていただいています。また、受講者の中からセラピー犬の育成と活動を実践したいと思う人材の発掘に繋がっています。





プロジェクトの概要

■背景・目的は？

公開講座を通して、多くの人達にセラピー犬の有効性と不足している現状など、正しい認識を深めていただくのが目的です。そして、受講者の中から「セラピー犬の育成とセラピー活動」を実践してみたいという人が出てくることがねらいとなっています。

■具体的な活動は？

▼講師

私たちのセラピー活動を指導・助言している東京の日本動物病院協会（JAHA）に講師1名の派遣を依頼しました。そして、赤坂動物病院獣医師の千葉陽子先生にセラピー犬について、その必要性、現状、将来像などについて講演していただきましたが、コロナ禍の現状から東京と青森でZoomを使ってリモートで行いました。

▼広報

次の方法で参加者を広く募りました。

- 県内の養護施設、福祉施設、病院、学校などへチラシを郵送
- Facebook、TwitterなどのSNS、ホームページ に掲載

▼公開講座の内容

- JAHA 講師による講演 (Zoom)
- セラピー犬のデモンストレーション
- セラピー犬ハンドラーの体験談
- セラピー犬の受け入れ側 (老人ホームなど) の効果事例の紹介
- 質疑応答
- セラピー犬募集案内

▼会場と参加者

講演会場は、この公開講座を後援する青森県動物愛護センターのホールを使わせていただきました。当日は青森県の方からコロナ感染を防止するため、ホールの定員30名の半分という人数の制限が設けられ、参加者は16名でした。そのホールに隣接する部屋には、チーム関係者21名が参加しました。当日は手指消毒、マスク装着、換気など配慮して行いました。また、4名が自宅からZoomで参加しました。



会場内



開会のあいさつ（理事長）



千葉陽子先生の講演（Zoom）



梅ヶ谷伸代先生の講演

■活動の成果は？

1. 公開講座に参加した人1名がセラピー犬の活動に興味を持ち、見学や愛犬と訓練を体験しました。
2. 公開講座に参加した老人ホーム関係の施設長がセラピー犬と入所者のふれあい活動を自分の施設に積極的に取り入れるようになりました。

助成金により、セラピー犬の活動で著名な講師に参加していただくことが出来、セラピー犬の現状と将来について講演頂き、大きな感銘を多くの人達に与えることが出来ました。その結果、新人のセラピー活動参入と新しい施設でのセラピー活動が増えて、セラピー活動の拡大につながりました。



成田道子会員の講演



セラピー犬のデモンストレーションの案内



参加犬の紹介



アトラクションのボールジャンプ

団体からのコメント

現在、コロナ禍のため、窓越しでのセラピー活動を行っていますが、コロナが暫時解消された場合を想定し、セラピー犬に直接触っていただく訓練を再開しています。

私どもは、収益事業を行っていないボランティア団体のため、その活動費を会員の会費、寄付、募金などで賄っております。今後も私どもにとって有益な助成金があれば応募するつもりです。また、セラピー犬とそのハンドラーについても今後さらに新会員が誕生するように努力したいと思います。

今後の目標は以下の通りです

1. 賛助会員の勧誘、寄付のお願い、募金活動で前年を上回る活動費の確保
2. 新会員数組の発掘を目標にマスコミを活用した広報活動を展開

